

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2296300011		
法人名	株式会社ブレインシステム		
事業所名	グループホーム虹の森	1階ユニット	
所在地	静岡県周智郡森町1588-5		
自己評価作成日	令和元年 10月 27日	評価結果市町村受理日	令和2年 2月 12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人静岡県介護福祉士会
所在地	静岡県静岡市葵区駿府町1-70 静岡県総合社会福祉会館4階
訪問調査日	令和元年 11月 26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日常生活の中で、安全・安心に過ごして頂き、入居者様が出来る事を実践して頂き達成感を味わって頂いている。たとえば、食事作りや洗濯物たたみ、掃除や壁画作りを行っている。外食、散歩、ドライブなどの計画を立て季節を感じて頂いている。地域との交流を行っている。また、保育園の慰問や中学生の福祉体験、高校生の実習を定期的に受け入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

美しい自然に恵まれ、また近くに役場や病院があり地域の事業所として好立地の場所にある。福祉の発信や施設への受け入れを積極的に行い、地域の資源として役割を果たしている。利用者の意向を大切にしている。日々の持っている能力を活かし、好きなこと得意なことを行うことで、生き生きとした生活を送ることが出来るよう支援している。中学生の福祉体験、高校生の介護実習、ボランティアを定期的に受け入れている。シーツ交換、配膳、レクリエーション等を体験しながら、高齢者の生活や認知症の理解を深めている。また、近隣の保育園児が散歩途中で立ち寄りたり、保育園に訪問したりと交流を図っている。全員が森町で生活していた方なので、習慣となっている神社や寺院への参拝、馴染みの行事や場所、人を大切にして生活の継続に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができて (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ユニット事務所と玄関前に掲示している。各職員に理念を書いた用紙をカードとして渡している	「利用者の尊厳を守る」を理念に掲げ、人生の先輩として敬い丁寧な声掛けを心がけ、スピーチロックしないケアを実践している。職員は、利用者を「唯一無二の存在」として支援にあたっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事のチラシなど地域の方に配っている	自治会を通し施設行事を伝えたり、町おこし行事に利用者が参加したり、保育園児が散歩途中に立ち寄るなど地域とのつながりを図っている。防災訓練には、地域の一員として参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	高校生の実習や中学生の体験学習、保育園の慰問を受け入れている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政・地域の方々に出席して頂き、社員・入居者様・介護サービスなど実情を伝えている。質疑応答の時間を設け話し合う時間も保たれている。また、利用者様にも出席して頂いている	毎回、地域の方2～3名、利用者家族3～4名、利用者3～4名、介護保険課の出席を得て事業所の取り組みや利用者の生活の様子を伝えている。家族の提案から不審者対応のため玄関ポーチを明るくした経緯がある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月に数回、必要に応じて市町村担当者に実情をお伝えし、運営推進会議にも出席して頂いている	熱中症やインフルエンザ等体調管理のことや、災害に関する情報の交換、また介護保険の更新や変更申請時の情報提供等相談をしている。積極的に連携を図ることで、安心して事業運営を進めることが出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	各職員、身体拘束の事を理解し、現在身体拘束は行っていない	外部研修への参加や職員からの報告を通して、周知徹底を図り理解を深めている。具体的な取り組みとして、一年間「スピーチロックをしない」を目標に10日間チェックシートを使用して、意識づけをしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	報道などで話題になった時はスタッフ等で話し合っている。また、研修などに参加し学んでいる		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用			

		管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し学んでいる		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族様が理解・納得される様時間を設けている。改定等の際は、予め文書で伝え、場合によってはより詳細に説明している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、運営推進会議で出された意見を話し合っている	運営推進会議や行事、訪問時に家族からの意見、要望を聞いている。より多くの意見を反映できるよう意見箱を設置してより多くの意見を利用者の様子や取り組みを伝え、話しやすい雰囲気作りを心がけている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各会議等で意見が出た時は、随時行っている	職員からは、申し送りやユニット会議、ノート活用の活用、半年に1回の個人面接で意見や提案を聞く機会を設けている。意見や提案は随時検討して、反映にできるように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月1回の全体会議、施設会議で把握に努めている。必要に応じて面接している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入社員研修は、年間計画を立て施設内研修を実施している。施設外研修は社員を対象とし随時参加している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修、講演等に参加し交流を図っている		

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	情報を共有し実践出来るよう努めている	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時などに最近の様子をお伝えして、何か要望がないか傾聴している	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人とご家族様が1番目に何を望んでいるか見極めるように努めている	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人と一緒に散歩・談話・レクリエーション・食事など、寄り添える家族の様な関係づくりになれるよう努めている	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会等の来設時、時間を共に共有できるよう努めている	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人等の面会や、馴染みの所へドライブ時に行くようになっている	なじみの神社への参拝や町内のイベントへの参加、友人、近所の方、知人等多くの方が面会に訪れ関係が継続されている。また、手紙やはがき、電話などで関係が途切れないように支援している。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人でも多くの方が参加出来るレクリエーションの計画を立てている。介護士が間に入り、談話が出来る時間を設けている	

22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	町内で買い物などで会った時に挨拶する程度だが、中には近況を話すケースもある		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々話を多くする事に努め、何を望んでいるか見つけ出すように心掛けている。話しをすることが苦手な入居者様には、周囲からの聞き取りなどで把握している	入浴時に利用者が一番本音を言える時間と捉え、ゆっくりと話を聞くようにしている。日々の会話の中や周囲からの聞き取りにおいて、本人の好きなこと、やりたいことを把握するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケアマネージャーからの情報提供や、面会時ご家族様に聞いたりしながら把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	施設内での生活の中、見守り・観察し把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティング時、ミーティングノート(課題ノート)を活用してスタッフと話し合い、介護計画を作成している	ユニット会議において、利用者2~3名ずつ話し合いを行っている。課題ノートがあり話し合いの内容や担当者のモニタリングから次の計画に繋がられるようにしている。話し合った介護計画は家族に確認している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ミーティング時、スタッフ同士で情報を共有し、計画の見直しを行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の状況により、常に柔軟な対応が出来るよう心掛けている		

29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くに住んでいるご友人やボランティアの方々を受け入れ、入居者様がこの地域で暮らしている事を実感できるように支援していく		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診では、ご本人・ご家族様の意向を優先しながら、施設側もアドバイスさせて頂き適切な医療を受けられるよう支援していく	全員が以前からの主治医に掛かっている。近隣に総合病院があり、受診は家族対応であるが対応できない場合は職員が対応している。往診はできないが、看取り時や特別な時には訪問看護をお願いができる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内に看護職はいないが、介護職が看護の眼を持って日々の変化に気付けるようにしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病状の様子や経緯を細かく医療機関に報告している。退院時には退院カンファレンスに積極的に参加し、退院後の対応が適切に行えるよう努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設内で看取りが出来る事を希望されるご家族様に伝えている。医療連携ネットワークシステムを活用し、医療機関の情報がすぐに伝わる仕組みづくりをし、急変時の対応に努めている	施設は看取り対応が行えるように整えているが、施設での看取り希望者はいない。往診できる先生はいないが、近隣に総合病院がある為、急変時は救急搬送している。入居時に看取りに関しての説明は行っている。	終末期の対応について、入居時に説明用の書式はあるが、看取りを行わなくても重度化に向けての話し合いは必要であるため、入居時の説明以外にも説明できるように整備、準備することを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時のマニュアルを整備している。職員は救命講習に参加させている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	3月・9月の年に2回、防災訓練を実施している(夜間想定も実施)	は行っているが火災用の訓練に特化している。今まで地域との協働はなかったが、今年度初めて職員が地域の防災訓練に参加することになっている。備蓄は3日分用意されている。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重して、目線を合わせた言葉掛けをすることを心掛けている	今年度「スピーチロックを行わない」という目標を掲げ、目線を合わせた言葉かけを心がけている。今までなかなかできなかった、同性介助が入浴や排泄の場面できるようにになっている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	物事を行う時は本人の意見や意思を尊重し、無理強いしないように行っている	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の気持ちを確認し、体調にも配慮して、レクレーションなどは必ず声掛けて参加の確認をしている	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人が決めることができる方は、本人に決めて頂いている。出来ない方は体調や天候、季節に合わせて着る服を選んで身だしなみを整える支援をしている	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜を切ったり、食器を拭いたり、おかずの盛り付けなどをして頂いている。塩分制限のある方、カロリーを抑えめ方は盛り付けの工夫、味付けを工夫しながら行っている	趣向調査を行い、食べられないものは極力変更ができるよう工夫している。3か月に1回のお楽しみ食事はお昼に行うようにしている。食材は外注だが、お楽しみ会の食材などは、近くのスーパーに利用者と一緒に買いに出掛けている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養が摂れていない入居者様には、カロリーが高い食事を提供している。水分は入居者様の好みや習慣に合わせて飲み物を工夫し提供して、不足しないようにしている	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時と、毎食後の計4回口腔ケアを行っている。ご本人にまず磨いてもらうが、状況によって職員が手伝うようにしている	

43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェックシートを時間別(排泄の有無、失禁等の有無)に記入し、一人ひとりのパターンを把握し、声掛け又はトイレに誘導している	全員トイレでの排せつができるように、チェックシートの活用や利用者の素振りを観察し誘導を行っている。下肢筋力が落ちないように、できるだけ歩いてトイレに行けるようにしている。夜間はポータブルトイレの利用者も数名いる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	1日の食事量、水分量をチェックしている。医師に処方を受けて便秘薬を服用している方もいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2～3回は入浴されている。希望に応じて他の日も入浴して頂いている。状況に合わせて、足浴やシャワー浴も行っている。	最低週2回入浴を行えるようにしている。時間は特に決めていない。マイシャンプーを持って来たり、利用者の好みで入浴剤やゆずを入れたりしている。入浴時間は特に決めていないため、利用者が好きな時に言葉かけて入っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後や入浴後、自由に過ごされ休息して頂いている。夜間も入居者様の意志で過ごされている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の在庫管理と、現在飲んでいる薬を一覧にしており、入居者様の状況に合わせて服薬を支援している。また、誤薬しないよう本人確認(服用前)などするようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	午前と午後、1時間程みんなでゲームや体操、散歩したりしている。興味のない方は個別で興味のある事をして頂いている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候の良い日は毎日散歩を行っている(真夏、真冬は除く)。他にも計画を立てドライブや買い物に出かけている	近くに保育園が移ってきたので、天気の良い日は毎日のように保育園まで散歩に行って、園児との交流を楽しんでいる。歩ける方、難しい方など散歩のルートに分け、体調などでその方にあったその日のルートを散歩するようにしている。	

50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設が立て替え、後日ご家族様に請求している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればいつでも対応している。月に1回、ご家族様への近況報告として職員が手紙と写真を出している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掃除・消毒を毎日行っている。室温もその日の気候に合わせて対応している。フロアの大きな壁に壁画を作って貼ってある	毎朝、換気のために窓を開け空気の入替えを行っている。利用者自身の塗り絵やその月の行事など利用者と職員と一緒に作った、切り絵などが張り出されている。ソファに座り、くつろぐ利用者もいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアのスペースの中でソファを用意したり、座位が難しい方にはリクライニングチェアを用意したりして、くつろげる空間を提供している。テレビも見やすい位置に設置している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は自由に使っている。思い出の写真や、レクリエーションの時に使った物や作品を飾り、いつでも見られるようにしている	クローゼットと壁の間に棚が2段あり、毎日下の段を机として使われ、日記を書いている方もいる。テレビや冷蔵庫を持ってきている方もいる。以前、墨絵を趣味で行っていた方は、自分の作品を掛け軸にしたり、色紙にして壁に飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア、居室内、廊下に手すりがついている。トイレの場所がわかるようにトイレの前に張り紙をしている		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2296300011		
法人名	株式会社ブレインシステム		
事業所名	グループホーム虹の森 2階ユニット		
所在地	静岡県周智郡森町森 1588-5		
自己評価作成日	令和元年 10月 27日	評価結果市町村受理日	令和2年 月 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人静岡県介護福祉士会
所在地	静岡県静岡市葵区駿府町1-70 静岡県総合社会福祉会館4階
訪問調査日	令和元年 11月 26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様の意向を重視し個々に対応できるように努めている。地域との交流は随時行っているが、保育園の慰問、中学生の福祉体験、高校生の実習及びボランティア活動を定期的を受け入れている。保育園は近隣に移って来られたので、散歩の帰りなどに立ち寄って頂いたり、保育園に出向いたり交流を深めている。家庭的な環境づくりに心掛けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ユニットの事務所と玄関前に掲示している。新入社員には理念を書いた物を渡している		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設内の行事のチラシを、自治会を通して配っている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	保育園の園児との交流、中学生の福祉体験、高校生の実習を受け入れている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政・自治会・ご家族様・入居者様の方々に出席して頂き、介護サービス等の実情をお伝えしている。質疑応答の時間を設け、お茶をしながら話し合う時間を持っている。開催日は2ヶ月に1回、月末土曜日に設定している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月に数回、必要に応じて市町村担当者に実情をお伝えし、運営推進会議にも出席して頂いている。必要な案内、文書等すべて手渡ししている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修に参加されたスタッフから発表してもらい、身体拘束の意識を高めている。スピーチロックに取り組んでいる		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修で学び話し合っている。報道等で話題になった時、ユニット会議及び運営推進会議で話し合っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族様が理解。納得されるよう時間を設けている。変更がある場合は説明し、文書で同意を得ている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、運営推進会議、意見箱等で出された内容を話し合っている。面会時ご家族様へ積極的に声をかけている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各会議等で意見が出た時は、随時行っている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	半年に1回自己評価と目標管理シートを使っている。個々に面談を行ったり、一人で悩まないよう心掛けている。キャリアパス制度・人事考課規定を導入している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入社員の研修は年間計画を立て、施設内研修を行っている。施設外研修は研修案内希望を聞いて参加している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修、イベントに参加し交流を心掛けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族様及び面会者からの情報を収集し、普段の会話を深め実践に努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時などに生活の様子をお伝えし共有している。要望は随時伺っている。出来る事から実践している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に知り得た情報を基に、入居後ご本人と家族が1番目に何を望んでいるか見極めるように努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人と一緒に過ごす時間を持ち、共に生活している関係づくりになれるように努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会等の来設時、気兼ねなく過ごしてもらえよう努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人等の面会や、馴染の所へドライブ時行くようにしている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共通の知人や地域の事を職員が間に入り談話が出来るように努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	町内で出会った時、ご家族様が近況を話されるケースがある		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	寄り添う事を常とし、話しをすることに努め、何を望んでいるかを知るように努めている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談時に知り得た情報や、知人の面会時に聞いたりしながら把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の観察・生活リズムの把握、心身の状況を知るように努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティング時スタッフと話し合い、介護計画を作成している		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ミーティング時スタッフ間で情報を共有し、計画の見直しを行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の状況により、常に柔軟な対応が出来るように心掛けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	知人やボランティアの方々を受け入れ、入居者がこの地域で暮らしている事を実感できるよう支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様、ご家族様の意向を優先しながら、施設側もアドバイスをさせて頂き、適切な医療が受けられるよう支援している		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内には看護師はいないが、介護職が日常の変化に気付くように、情報交換・申し送り・観察力に努めている。早期受診。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病状等の様子や経緯を細かく医療機関に報告している。退院時にはカンファレンスに出席させて頂き、対応が適切に行えるよう努める		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当施設内で看取りが出来る事を、希望されるご家族様には伝えている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時のマニュアルを整備している。職員は救命救急講習に順次参加している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回(3月と9月)に実施している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重して、目線を合わせた言葉掛けをすることを心掛けている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	物事を行う時はご本人様の意志等を尊重し、無理強いはしていない。選択肢を挙げている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	必ずご本人様の気持ちを確認し、体調にも配慮している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様が決めることができる方は決めて頂いている。出来ない方は、その日の気候や季節に合わせて選んでもらっている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りを職員と一緒にしてもらっている。テーブル拭き、食器洗い、片づけ等行っている。同じ材料で味付けを変えている方もいる		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量は個人差があるが、バランスよく食べられている。水分はお好みの飲み物を準備し、確保出来るよう努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時と毎食後行っている。状況に応じて職員が手手伝っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェックシートを時間別(排泄の有無、失禁等の有無)に記入し、一人ひとりのパターンを把握し声掛け又はトイレ誘導を行っている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	1日の食事量・水分量をチェックしている。医師に相談し、便秘薬を服用している方もある。入浴時等腹部のマッサージを行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回は入浴されている。必要性和希望に応じて足浴を行っている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後や入浴後、自由に過ごされ休息して頂いている。夜間も入居者様の意志で過ごされている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の在庫管理と、現在飲んでいる薬を一覧表にしており、入居者様の状況に合わせて服薬の支援をしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	午前の散歩、午後のレクリエーション、談話・歌を唄って声を出している。個々に興味のある事している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天候の良い日は散歩に出掛けている。ドライブ、買い物にも出掛けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	立て替えておき、後日入居料の請求時に合わせて行っている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればいつでも対応している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掃除、消毒は毎日行っている。室温は、その日の気候に合わせてエアコン等で行っている。壁画作りを入居者様と職員とで一緒に作っている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアのスペースの中でソファを用意し、くつろげる空間を提供している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は自由に使って頂いている。ご本人が気持ち良く過ごせることを1番にしている。ご家族様の協力も得られている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア、居室内、トイレ等に手すりがついている。トイレのドアには場所がわかるように張り紙をしている		